SHIMANE AKAHIGE BANK

島根の地域医療

2013／10／10 第４６号

発行者
島根県健康福祉部
医療政策課医師確保対策室

今回の紙面

◆地域医療最前線 NO.51《榊原均 所長》　◆看護師さんのページ NO.31《田原宣子 看護部長》
◆研修医のページ NO.34《渡部雅子 先生》
◆一般社団法人しまね地域医療支援センターの活動報告　◆島根大学医学部附属病院に「みらい棟」が完成　◆島根県地域医療再生計画の概要　◆平成 25 年度自治医科大学説明会

地域医療最前線 NO.51

海士診療所

所長　榊原　均

海士診療所は隠岐島前、中ノ島（人口２，４００人）にある唯一の医療機関で、平成６年に旧３診療所が統合され医師３名、看護師９名のスタッフでスタートした。その後医師１名が退職し、現在は医師２名で診療を行っている。その他、県より２週に一度の精神科医の派遣と、玉造厚生年金病院より月に一度の整形外科医の派遣を受けている。一日平均外来患者数は１２０人程度であるが、そのほとんどが高齢者である。

高齢化の波は診療所の医療従事者まで及び、慢性的なスタッフ不足、とりわけ看護師の確保が困難な状況が続いている。このような折、町政策でのＩターン誘致が功を奏し、数名の看護師のほか、検査技師、理学療法士など新たな職種が順次採用された。

その後、医療運用の効率化のための電子カルテの導入や、緊急疾患対策としてＣＴ設備を整えた。電子カルテの導入後、当地区の中核病院である隠岐島前病院長の働きかけで電子カルテの連携が行われ、早期からの患者情報の共有化が図られた。これによりバックベッドが確保され、在宅看取り、在宅緩和医療の進展となり、多方面の職種（ヘルパー、保健師、ケアマネージャー、歯科医師、歯科衛生士）から成る在宅緩和医療チームを立ち上げるに至った。その結果、在宅看取りは４２・５％、島前病院での看取りを加えれば７５％に達している。

当地区の地域医療の特色は、離島、へき地であるための地理的なハンディキャップを最小限に留めるため、２つの項目が成されていることと考える。

一つ目は、小さな離島ゆえに保健・医療・福祉の連携が緊密にとられ、一つのチームとして成立できたことである。

二つ目は、このチームが専門機関スタッフとの連携を構築できたことである。

前述の島前病院との連携の他、糖尿病対策あるいは予防対策として糖尿病専門医、神経内科医、眼科医の診察や管理栄養士による栄養相談、さらに認知症、脳血管疾患対策として神経内科医の町内巡回診療が行われている。いずれの場合も専門医の診察後にミーティングを開き患者個々のケース別にご指導をいただいている。これは我々にとっても、最新の専門知識の入手のチャンスの場となっている。

へき地医療医が「かかりつけ医」として全ての疾患に対応することは困難でリスクを伴う。このリスクを可能な限り少なくするには、いかに専門機関、専門医とのスムーズなサポート体制を構築するかにかかっているように思われる。小さな診療所で大きな目標を持ち日夜努力を続けている。

看護師さんのページ NO.31

益田赤十字病院

看護部長　田原　宣子

益田赤十字病院は、島根県西端に位置し地域の中核病院としての役割を担っています。診療圏域人口約７８，０００人、ベッド数（実働）３０８床、14診療科を37名の医師と非常勤医師の支援により、救急医療・急性期医療や周産期医療の維持に努めております。

看護職員数は２６０人です。看護部

では、病院理念「人道を尊び、地域の方とともに良質な医療を目指します」に基づき、看護実践能力の向上、及び看護専門職としてチーム医療のコーディネーター役を担える看護師の育成に取組んでいます。

島根県西部の医療従事者の不足は深刻で、看護職員確保は看護部として喫緊の課題です。毎年10名前後の新人看護職員を迎えていますが、急性期における高齢者への対応や職員の労働環境を整えるためには、まだまだマンパワーが不足しております。看護職員確保活動の一環として、将来、医療従事者を目指している地域の中・高校生を対象に、病院見学や医療体験等を積極的に受け入れています。今年の夏は、中学生の医療現場体験、中・高校生の1日助産師体験、高校生1日看護師体験等、合わせて100余名の中・高校生を迎え医療・看護の現場を見学・体験していただきました。将来、少しでも多くの方が地域に戻り、医療従事者として一緒に働く日が来ることを願っています。

「中・高校生１日助産師体験」

また、看護の質向上のためには、人材育成も重要な課題です。認定看護師は、現在4領域4名ですが、病院の支援もあり、当院の医療・看護に必要な分野を更に増やしていく予定です。新人看護職員研修をはじめ教育研修には力を入れています。従来の研修プログラムに満足するのではなく、少しでも魅力的な研修を企画できるように、教育研修担当者が工夫を凝らして頑張っています。研修のテーマによっては、地域の看護職の方に参加のご案内をして、共に学べる機会を持っています。

今年度、看護協会の「ワークライフバランス・ワークショップ」に参加しました。インデックス調査結果から、当院は、定着率、看護職員の年齢構成のバランスがよく、看護の伝承やキャリアの積み重ねが出来る環境にある、そして団結力の強い職場であることを再発見しました。看護部の強みを活かし、働きやすい魅力ある職場となるように今後も取り組んでいきたいと思います。

「高校生１日看護師体験」に参加した皆さん

研修医のページ

NO. 34

松江赤十字病院 1年目研修医 渡部 雅子

桜の季節に12人の同期で始めた初期臨床研修も、早いもので一年の半分が終わりました。朝晩の冷え込みに季節の移り変わりを感じます。研修を始めた当初は戸惑いと不安の毎日でしたが、指導医の先生方をはじめ、コメディカルスタッフのみなさん、2年目研修医の先輩、同期に支えられながら今日まで研修生活を送ることができています。

当院は、島根県東部の中核病院であり、一次から三次までの医療を担っております。そのためcommon diseaseから重症、救急疾患まで、多くの経験を積むことができます。研修プログラムも、選択必修の科が必修である一方、自由に科を選択できる期間も十分にあり、幅広い知識を2年間で付けることができると思います。

また週に2回、研修医カンファレンスを開いています。ここでは、研修医同士が経験した症例を発表し、症例の共有を行っています。救急外来で患者さんに出会うところから、検査や処置、対応していく過程を学ぶこともでき非常に勉強になります。さらに週に1回、各科の先生方がレクチャーを行ってくださいます。臨床視点の内容も多く、講義だけでなくエコーや縫合などの実技もあるため、こちらも貴重な時間です。

まだまだ未熟者の私たちですが、患者さんやご家族から、「先生、ありがとうね。」と言っていただくことがあります。非常に嬉しい気持ちになると同時に、医師としての責任を感じる瞬間です。私たちはまだ研修医という立場であり、私たちにできることは微々たるものですが、患者さんから見ると主治医の一人です。そのことを心にとめ、これからの研修も頑張っていきたいと思います。そして多く

の経験を積み、知識と思いやりを兼ね備えた医師になり、医療を支える一員となっていきたいと思います。

今後とも、日々精進して参りますので、ご指導よろしくお願いいたします。

一般社団法人しまね地域医療支援センターの活動報告

―ワークライフバランスの推進に向けた取組みについて―

9月8日、ニューウェルシティ出雲で「働きやすい病院づくり研修会」を島根大学医学部地域医療支援学講座との共催で開催しました。NPO法人イージェイネット代表理事の瀧野敏子先生より「ワークライフバランスを充実させるための環境づくり」と題し講演いただきました。『働きやすい病院認定事業』で自らの実体験を踏まえ、働き方や価値観が多様化している中、男女すべての職員を対象に組織のモチベーションをアップするにはどうすればよいか、全国の病院の具体的な先進事例も紹介していただきました。

引き続き午後からは、昨年度から実施している「医療従事者支援担当者研修会」を開催し、しまねの地域医療を守り育てるため、医療機関、行政等が地域医療の現状と課題を共通認識し、連携して取り組めるようテーマ別にグループディスカッションを行いました。医療機関や行政、事務職や看護師、多種多様な立場の方々と白熱した議論を交わし、お互いのネットワークが形成でき、有意義な研修会となりました。

【同センター事務局】

島根大学に研修医の育成拠点施設「みらい棟」が完成

県内の研修医の育成拠点として建設を進めていた島根大学医学部附属病院「みらい棟」が完成しました。9月14日の開所記念式典には、県知事をはじめ、県医師会長、県議会議員、市町村長の皆様など約100名に出席いただき、「新たな専門医の仕組みの方向性について」と題する厚生労働省医政局医事課長 北澤潤様の特別講演もありました。

「みらい棟」は総工費約5億円。研修環境の充実に向けて、TV会議システムを備えた臨床研修室「ギャラクシー」や研修医の居室等を整備するとともに、「卒後臨床研修センター」「総合医療学講座」等の大学の関係部門に加え、「一般社団法人しまね地域医療支援センター」も入居しています。

島根大学医学部附属病院は、今後ともしまね地域医療支援センター等の関係機関と一層連携を強化し“オールしまね”での若手医師の県内定着に取り組んでまいります。

【島根大学医学部総務課】

島根県地域医療再生計画の概要について

8月6日に開催された島根県地域医療支援会議において、追加の地域医療再生計画が決定されましたので、その概要をご紹介します。

島根県では、これまでも地域医療再生計画に基づき事業を実施してきました。これまでの計画は、今年度を計画終期とし、医学生奨学金をはじめとする医師・看護師確保対策やドクターヘリの導入、医療情報ネットワーク（愛称「まめネット」）の整備などに取り組み、計画の規模は87・5億円に及びます。

この度、追加の計画が決定された理由は、今年度以降も継続的な医師確保対策が必要であること、新しく保健医療計画に盛り込んだ在宅医療の推進が必要であること、東日本大震災を教訓に、大規模災害発生時における災害医療体制の充実強化を図ることが必要であることを踏まえたものです。

追加の計画は、事業期間を平成25年度から27年度までとし、計画の規模は9・5億円としています。その内容は、①医師確保対策、②在宅医療の推進、

③災害医療の体制整備の３つを柱としています。

①医師確保対策

医学生奨学金の定員増枠を引き続き維持するとともに、一部を全国の大学医学部を対象とした奨学金へ拡充したり、一般社団法人「しまね地域医療支援センター」や島根大学医学部「地域医療支援学講座」のさらなる取組みを支援します。

②在宅医療の推進

在宅チーム医療を推進するため、医療機関や訪問看護ステーション、薬局等において「まめネット」を活用した情報共有を行います。また、医療や介護における多職種の連携を促進するためのモデル事業を実施します。さらに、訪問看護師の研修を行う機能を持った訪問看護ステーションの設置、在宅歯科診療の普及に必要な機器の整備、人材育成や普及啓発事業にも取組みます。

③災害医療の体制整備

災害時の医療救護活動を担う災害拠点病院等における自家発電機等の整備や災害派遣医療チーム（ＤＭＡＴ）の緊急車輌、携行用医療機器等の整備を行います。

今後の事業実施にあたり、皆様のご支援とご協力をよろしくお願いします。

【医療政策課　伊藤】

島根県地域医療再生計画（追加分）の概要

医師確保対策 4．5億円

○医学生に対する奨学金	2．2億円
○地域医療支援センター運営費	1．5億円
○島根大学医学部寄附講座	0．8億円

現在実施している対策をさらに継続するため基金の積増しを行う。

在宅医療の推進 3．2億円

○まめネットを活用した在宅医療チーム間の情報共有	1．6億円
○コーディネーターの配置等による在宅医療チームの連携促進	0．7億円
○訪問看護研修センター・在宅歯科診療設備の整備	0．5億円
○訪問看護師の人材確保・育成等	0．3億円

災害医療の体制整備 1．8億円

○災害拠点病院等における自家発電機等の整備や災害派遣医療チーム（DMAT）の緊急車輌、携行用医療機器等の整備	1．8億円

平成25年度自治医科大学説明会

平成25年度の自治医科大学の大学説明会が、８月９日の浜田会場（浜田高校）を皮切りに、県内４会場（10日益田高校、11日サンラポーむらくも（松江市）、23日出雲高校）で開催されました。※23日の出雲高校は、島根大学医学部と合同で説明会を開催。

自治医科大学は、地域医療を担う総合医の養成を主な目的として、47都道府県の共同により設立された大学で、卒業生は出身県に戻り、一定期間地域の医療機関で勤務します。入学金や授業料等の修学資金が貸与されるという特徴があります。

また、毎年高い医師国家試験合格率を誇っており、平成25年の合格率は99・1％で全国1位です。

各都道府県から毎年２～３名が入学し、現在16名の島根県出身者が在籍しています。また、卒業生は75名おり、このうち約50名が県内の医療機関等で医師として活躍しています。

大学説明会には、医学部への進学を志望している高校生やその保護者、高校教諭等53名が参加され、学校紹介のＤＶＤ上映や、自治医科大学の亀崎豊実准教授による、教育内容や特色についての説明が行われました。地元出身の在学生や卒業医師による体験談には、皆さん熱心に耳を傾けておられました。

出雲高校での説明会の様子

今年の説明会には、高校１年生の参加が多く、具体的な進路選択はこれからになると思いますが、説明会をきっかけに、地元島根の地域医療に関心を持っていただき、今後の進路の選択肢の一つにしていただければ幸いです。

【医療政策課　宍倉】

島根県で勤務していただける方を紹介してください

友人・知人に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。ご紹介いただいた先生には、医療機関の情報等を提供し、U・Ｉターンを支援します。

医師募集・地域医療視察ツアー参加者募集

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。また、地域医療の視察ツアー（県負担）を実施しています。お気軽にお問い合わせください。

「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせ願います。

携帯からの問い合わせはこちら

〒690-8501　松江市殿町１番地　島根県健康福祉部 医療政策課 医師確保対策室
TEL 0852-22-6684　FAX 0852-22-6040
E-Mail iryou@pref.shimane.lg.jp
ホームページ：島根の医師確保対策　検索